

# 2024年の回顧と新年の展望

## ～ 2024年の回顧 ～

### 国内景気

#### ～前半は回復の動きが鈍化したものの、後半は緩やかな回復基調をたどる

2024年の国内景気を振り返りますと、前半は一部自動車メーカーの生産・出荷停止などを背景に生産が停滞したほか、物価上昇に伴う節約志向の高まりにより個人消費も弱含むなど、回復の動きが鈍化しました。夏以降は、生産に持ち直しの動きがみられ、賃上げに伴う所得環境の改善により個人消費も上向くなど、緩やかな回復基調をたどりました。

項目別にみますと、個人消費は、前半は物価上昇による下押し圧力がみられましたが、後半は賃上げに伴う実質所得の改善などにより、緩やかに持ち直しました。このうち、乗用車販売は、自動車の生産停止に伴う供給制約などの影響もあり、一時大きく落ち込む状況もみられました。

設備投資は、機械・ソフトウェアの価格や建設コストの上昇、人手不足による工期の長期化などマイナスの影響があるなかでも、企業業績の改善や省力化・デジタル化などへの底堅い投資需要から、緩やかな増加基調で推移しました。

生産は、一部自動車メーカーの工場稼働停止や台風などの自然災害の影響を受けて弱い動きがみられましたが、秋以降は工場の稼働再開に伴い増産の動きがみられ、均すと横ばい圏での推移となりました。

### 県内景気

#### ～持ち直しの動きに足踏み

県内景気を振り返りますと、本県の主力産業である機械工業で弱い動きが続いたほか、長引く物価高で個人消費も力強さを欠くなど、持ち直しの動きに足踏みがみられました。

項目別にみますと、個人消費は、物価高に伴う生活防衛意識の高まりから弱含みで推移しました。食料品などの非耐久財が比較的堅調に推移した一方、家電品や乗用車などの耐久財は年間を通じて弱い動きが続きました。

設備投資は、年央まで、海外経済の先行き不透明感や建設コストの高止まりを背景に慎重姿勢が続きました。後半は、工場や宿泊施設で新設の動きが広がるなど、一部で持ち直しの動きがみられました。なお、公共投資が堅調に推移した一方、住宅投資は建築コストの上昇が重石となり前年並みの推移となりました。

生産は、本県の主力産業である機械工業が、海外経済の減速や在庫調整の長期化などの影響により弱含みで推移しましたが、秋以降には半導体製造装置や電

子部品・デバイスなど一部に上向きの兆しが窺われました。一方、宝飾、ワイン、ニット、織物などの地場産業は、納入先や取扱製品によりばらつきがみられましたが、国内市場の縮小や原材料価格の上昇など、総じて厳しい局面が続きました。

なお、観光関連をみますと、夏場の台風など天候不順によるマイナスの影響がみられたものの、国内客が堅調に推移したほか、外国人観光客も過去最高水準となり、全体としては好調に推移しました。

## ～ 新年の展望 ～

### 国内景気

#### ～緩やかな回復の動きが続くが、不安要素も

2025年の国内景気は、世界的な半導体需要が回復に向かうなか、輸出の増加に牽引されて生産の増加が見込まれるほか、所得環境の改善が進むなかで個人消費が堅調に推移することや、好調な企業業績を背景とした設備投資の増加も下支えとなり、緩やかな回復基調が続くとみられます。ただし、米中貿易摩擦の再燃など地政学的リスクの高まりや物価上昇に伴う消費マインドの低下、人手不足による供給制約などが景気を下押しする可能性があるため、注視していく必要があります。

項目別にみますと、個人消費は、企業収益の増加や人手不足に伴う雇用維持を背景に賃上げが進むなど、所得環境が改善に向かうことで、回復基調を維持すると考えられます。ただし、物価上昇に伴う消費マインドの悪化や実質購買力の低下による落ち込みには注意が必要です。

設備投資も、好調な企業業績を背景に持ち直しの動きが続くと見込まれます。人手不足への対応として自動化・省力化投資が進むほか、デジタル化投資や研究開発投資、脱炭素に向けた環境対応投資など、足元で重要性が高まっている分野での投資需要増加が下支えするとみられます。

生産は、為替が円安水準で推移するなか、世界的な半導体需要の回復や自動車生産の持ち直しによる輸出の増加を背景に、回復に向かうことが期待されます。ただし、海外の政治や経済の動向如何では、輸出が腰折れする可能性があることには注意が必要です。

### 県内景気

#### ～緩やかな回復に向かう

県内景気は、生産面で機械工業が増勢に転じていくなかで、企業収益や雇用・所得環境の改善を通じて設備投資や個人消費にも波及していくことが期待され、全体としても緩やかな回復に向かうとみられます。

項目別にみると、生産面では、長期化していた在庫調整の収束や、世界的な半導体需要の回復を背景としたシリコンサイクル底打ちの動きが県内企業へ波及することで、半導体製造装置や電子部品・デバイス、工作機械などを中心に機械工

業が増勢に向かうと期待されます。一方、ワイン、ニット、織物などの地場産業については、物価高や国内需要の伸び悩みから、総じて厳しい局面が続くと考えられます。ただし、素材やデザイン、技術等で新たな製品開発に注力することや、顧客ニーズを捉えた自社ブランドの構築などに取り組むことで、新たな需要の取り込みが可能となると考えられます。

設備投資は、多くの業種で共通の課題となっている人手不足への対応として、自動化・省力化やデジタル化に向けた投資が増加していくことが予想されるほか、生産能力増強投資や付加価値を高める投資が増加していくとみられます。

個人消費は、長引く物価高騰により消費マインドが弱含む状況が続くとみられますが、企業業績の改善や堅調な雇用・所得環境に支えられ、緩やかに上向いていくと考えられます。

なお、観光関連をみますと、国内観光客、外国人観光客ともに更なる増加が見込まれ、県内各地で賑わいが続くことが期待されます。

## ～ 巳（ミ）の話 ～

2025年は、巳年です。巳（蛇）は、爬虫綱有鱗目ヘビ亜目に属する爬虫類の総称です。種類は非常に豊富で世界中にいろいろな特徴をもった蛇が分布していますが、手足がないというのが共通点です。

爬虫類である蛇は、卵から孵化（ふか）します。孵化の際、卵を内側から裂くため、生まれながら卵歯という歯がありますが、この歯は孵化後数時間で抜け落ちます。孵化後は体に付着した卵黄を栄養とするため、食事を必要としません。そして1～2週間で最初の脱皮を行い、食事をするようになります。その後は脱皮を経て成長していきますが、脱皮は成長だけでなく、新陳代謝でも起こるので、代謝の良い蛇ほど脱皮の回数が多くなります。なお、笛の音にあわせ蛇が踊る蛇遣いという大道芸がありますが、実は蛇には音がほとんど聞きとれていません。蛇は音の振動を感じる聴覚に優れていて、蛇遣いは足の振動による刺激や、手などの動きで威嚇することで蛇を踊らせ、その動きにあわせ笛を吹いています。

蛇は昔から金運の象徴としても語り継がれており、日本では、財運の神様である弁財天の化身として信奉されています。また、体まるごと目まできれいに脱皮する姿から再生と増殖を象徴する存在として祀られており、そこから転じて蛇の抜け殻は「金運を上昇させるお守り」となったと言われています。中でも体の色素の欠乏や減少などが原因で体が白くなった白蛇は幸運の印とされ、縁起の良いものとして扱われています。山口県岩国市に生息する白いアオダイショウは「岩国の白蛇」として国の天然記念物に指定されています。

山梨県で行われる大きなお祭りのひとつである「吉田の火祭り」にも蛇に関する伝承があります。火祭の神輿は神社を発って上吉田の上宿から下宿に向かいますが、このとき神輿とともに白い蛇神（へびがみ）も上吉田の上宿から下宿に下っていくと言われています。そのため、御師（おし）の家では、火祭当日の朝に、屋敷地内に流れる川を清掃し、蛇神の通りを迎えます。これを「白蛇様（しろへびさま）のお下り」といいます。

わが国の巳年の歴史を振り返りますと、大化の改新（645）、平等院鳳凰堂建立（1053）、平家滅亡（1185）、首都を東京に遷都（1869）、国会開設の勅諭（明治十四年の政変）（1881）、真珠湾攻撃、太平洋戦争開戦（1941）、奄美群島が日本復帰（1953）、日韓基本条約（1965）、ダッカ日航機ハイジャック事件（1977）、平成改元、横浜ベイブリッジ開通（1989）、東京ディズニーシーがオープン（2001）、日本銀行が「量的・質的金融緩和」を導入（2013）などの出来事がみられました。

また、山梨県関連では、武田信玄、積翠寺にて誕生（1521）、甲府日日新聞を山梨日日新聞と改題（1881）、県立工業試験場設置（1905）、市立甲府工芸学校（現甲府工業高等学校）設立（1917）、富士山麓電鉄（現富士急行）の大月―富士吉田開通（1929）、第十銀行と有信銀行が合併、山梨中央銀行が創立（1941）、山梨県流通センターオープン（1977）、リニア新実験線の建設地が山梨に決定（1989）、全国植樹祭（2001）、富士山世界遺産登録（2013）などの出来事がみられました。

なお、巳年生まれの名人としては、岡崎体育、奥田民生、賀来賢人、久保健英、ゲーテ、小林幸子、さくらももこ、佐藤健、シューベルト、ダーウィン、滝川クリステル、武田信玄、多部未華子、仲里依紗、錦織圭、西野カナ、萩本欽一、林修、HIKAKIN、氷川きよし、古田敦也、本田真凜、松平健、宮崎駿、山里亮太、山下達郎、ゆうちゃみ、渡哲也などがいます。

陰陽五行によると、2025年は、「乙巳（きのと・み）」にあたります。「乙」には外界の抵抗により草木が曲がりくねりながらも成長していく状態、どんな抵抗があっても一致協力して進めていく、という意味があります。また、「巳」には、従来の生活に終わりを告げ、新たな時代に切り替わる、という意味があります。このため、「乙巳」は、「古い慣習といった様々な抵抗に屈することなく、新境地を目指す」年ということになるのでしょうか。

巳年は大きな変化と転換が起こる年と言われています。日本をみても、大化の改新、平家滅亡、東京への遷都、太平洋戦争開戦、平成改元、日本銀行の量的・質的金融緩和導入など、歴史上の転換点となる出来事が起こっています。2024年には日経平均株価が34年ぶりに史上最高値を更新したほか、日本銀行が17年ぶりに利上げを行うなど、2025年の大きな時代の変化を予感させるような動きがありました。「鬼が出るか蛇が出るか」わからない年になるかもしれませんが、「常山蛇勢」（じょうざんのだせい）で新時代を切り開いていく年にしたいものです。

※御師…富士山信仰を支えている人々

※鬼が出るか蛇が出るか…どのような事態が起こるか予測できないさま

※常山蛇勢…統一がとれていて、欠陥やすきがないさま

※巳（ミ）の話は、ヘビ飼いの基本（誠文堂新光社）、干支の活学（プレジデント社）、富士吉田市観光ガイドホームページなどから当社で作成

2024年12月  
山梨中銀経営コンサルティング株式会社